

# 合気道の本



道主挨拶

合気道道主 植芝 守央

道場紹介

合気道 神明塾(ふじみの市)

志念会(宮代町)

新所沢合気道同好会(所沢市)

大成合気道会(さいたま市)

彩のなでしこ

新郷合気会

埼玉県合気道連盟 Vol.41

# 道主挨拶

世界中に新型コロナウイルスが感染拡大しております。感染してしまわれた方々の一日も早いご快癒を願い、お亡くなりになられた方々とそのご家族に対し心からの哀悼の意を表します。

現在、新型コロナウイルス（COVID-19）が世界中に広まる中、感染防止対策として様々なことが縮小・中止となり、社会がすっかりどんよりとした曇り空と化してしまっています。

合気道に関しましても各地域で行事は取りやめ、施設閉館により通常の稽古すら行うことが出来なくなっております。やむを得ない事とはいえ大変残念に思います。

確かに新型コロナウイルス感染防止と自己防衛は大切なことですが、それにより不自由な生活に心まで疲弊してしまっていないでしょうか。人としての思いやり、優しさを失っていないでしょうか。今の新型コロナウイルスによって人としての心のありようが試されているような気がします。

「合気道の心の体現である丸い捌き、和合の心」は人として最も大切にしなければならぬ事だと思えます。今、このような時こそ、和合の心を大切に、新型コロナウイルスを恐れても人としての道徳心を失わず、恐れる余りに争い、差別などが起こらぬように、皆が心穏やかに和（なご）やかに生きていたいと思えます。

この感染が終息し、合気道の日々の稽古を取り戻せる時まで、「和合の精神」を忘れることなく、日々の稽古を行える時に備え、歩んでいただきたいと願っております。

合気道道主 植芝守央

# 報告道場行事

## 道場紹介

### 合気道 神明塾（ふじみの市）

佐々木望鳳馨



合気道神明塾は、前塾長であり本部道場師範でもありました、故佐々木将人師範がふじみ野市（当時は上福岡市）に開いた道場です。

昭和五二年、前塾長がフランス政府文化庁の招聘により「人間性回復道場」の神道・武道教授として渡仏してから帰国した直後の同年九月に、地域の要望により自宅近くの会館の二四帖の道場から始まりました。

その後、「神道は即ち兵道なり。即ち國家経綸を司る大道なり」との古神道の管長の教えから「神武一道」の精神を日本の未来を担う子供に広め伝える為、現在は山陰神道上福岡齋宮と合気道道場「神明塾」として幼稚園児から高校生までの子供達



を指導しています。

年々増加する悲しい事件や残虐な犯罪、その他様々な社会問題を見るにつけ、ご縁ある神明塾の子供達には「思いやり」「人を敬う心・大切に  
する心」「自立心」を身につけて欲しいとの思いから、礼儀作法はもとより、人間形成の基盤作りである心の鍛錬に重点を置きながら、日本に生まれたことへの感謝と誇りを持てる子供達の育成を目指しています。

また、合気道の技術や所作も重要ながら、「教えることは学ぶこと

ある」との諺通り、先輩は先輩らしく、後輩の姿勢や帯の結び方、そして技術面での指導を任せたりしながらお互いが切磋琢磨出来るように導いています。

前塾長が常々、「武道の極意は姿勢と間合い」と伝えていたことから、合気道そのものが日常生活全般に亘って応用が利かなければ意味がなく、立ち振る舞いや生き方そのものが合気道であるという教えを実践すべく、現塾長である私自身も精進しながら教え導いているところです。

## ● 志念会 (宮代町)

わが志念会は、毎週日曜の九時から一二時まで、県立宮代高校の道場をお借りして稽古を行っています。年齢構成も幅広く、中学三年生から七〇代まで総勢一一名、老若男女を問わず汗を流しています。

稽古の内容も初心者や始めて間もない人には基礎的な受け身や体の使い方、基本的な技を重点的に、中級者は技の習得やよりスムーズな体の使い方など攻撃方法を変えて有段者に受けをとってもらい、励んでいます。また、年末には他団体と合同での演武の発表会があり、また併せて昇級昇段審査も行われるのでその数か月前から稽古にさらに熱が入ります。

私もこのたびの昇級審査で、初段を受け、合格することができました。五〇歳を前に始めた合気道で、またなんの武道の経験もない私が初段になれたのも、先生をはじめ諸先輩方の丁寧な指導と呑み込みの悪い私に根気強く相手をしてくださったお陰だと感謝しております。

そもそも私が合気道を始めたの



依田 徳英

は、まだ幼い息子と娘に武道を学んでほしいという思いがきっかけでした。礼儀を身につけて、心身ともに強い人間になってほしい、そういった思いでこの道場を訪れました。当初、私は子どもの付き添いで来ていただけで、ただ見学をしているつもりでした。しかし集中力の続かない子どもたちを飽きさせないため、またもとも合気道に興味もあったので一緒に稽古に参加しているうちに、いつの間にか私が夢中になってしまいました。子どもたちは一年もたたずにやめてしまいましたが、私はそのまま続けることになりました。合気道をはじめから普通の生活では全く経験のできないことをたくさ





んさせていただき、それがとても生活の刺激になったからです。はじめて間もないころは、それまでほとんど入ったこともない道場という場所にいるだけで、単純に不思議な感覚でしたし、また相手を投げたり投げられたりという普段ではありえないことをしているのはとても楽しいものでした。新しい技を覚えるのに難しさを感じながらも、苦勞しながらうまくできた時の喜びはとても大きく、合気道をつづけていく

大きな励みになりました。昇級審査で級を重ねていくうちに合気道への思いも強くなり、いずれは有段者になりたいと思うようになりました。そして当面の目標を初段取得に据え、それを力に頑張ろうと決めました。つづけていくうちに上手いかないことも多く、途中で挫折そうになることも多々ありました。しかし先生や諸先輩の優しい指導の陰でなんとかつづけることができました。そしてこの度、ようやく初段となることができました。まだ実力不足は隠しきれず、本来ならばもっとじつくりと時間をかけて一つ一つの技に向き合うべきだったのではないかと思います。まだまだ未熟な部分は多々あり、最初からやり直してしっかりと基礎を学びたいと思うこともあります。しかしこういった思いは稽古でしか解消されないのでしょうか。先を見据えてしっかりと稽古に励み、なぜうまくいかないのかを熟慮して自分の合気道に向き合いたいと思います。これからも最初感じた合気道の楽しさを忘れることなく、つづけていきたいと思えます。

## ●新所沢合気道同好会（所沢市）

山口裕之

当会は、昭和六一年に山上三一会長が、針すなお師範を指導者としてお迎えして設立されました。それから三三年以上の長きに亘り、現在もお二方から指導いただき、会員一同稽古に励んでおります。

針師範のモットーは「和気・合気・烈気」そして「体の杖（たいのじょう）」。

合気道の稽古は楽しい中に厳しさがあること、徒手でも武器を持つても同じように、どのような状況下でも合気道の体捌き・身のこなしができるように身につけること、を目標に稽古を続けております。



稽古は週四日、水・金・土・日曜日です。今回は一二月二二日（日）の稽古を紹介させていただきます。

日曜日の稽古は小学生以下の少年部と、中学生以上の一般部に分かれて同時刻から始まります。本日一般部は 御手洗 温磨 師範の指導による特別講習会を行いました。その内容は、小学六年生四名を一般部に合流させて、中学進学後も一般部にて合気道の稽古を続けたいくなるように、稽古の楽しさと難しさを体感できるような稽古です。少年部では最上級生として、下級生に教えていた基本技を改めて見直し、新しい発見ができることを期待しています。

このような講習会は数年前から年に数回実施し、毎年数名が中学進学後も稽古を継続しています。更に高校生になっても続ける者がいるお蔭で、全国高等学校合気道演武大会には、埼玉県連を通して二度参加させていただきました。

合気道の稽古を二時間した後、「体の杖」の稽古を行います。

針師範が共に長年修業している、



合気道…円の体術と、直線の杖。その二つを融合して創始した新武道が体の杖です。木刀や杖の攻撃に対して、杖を自らの体の一部であるかのように動かし、投げる・倒す・抑える等々、多彩な技を稽古します。遠い間合いからの速い攻撃への捌き、木刀や杖を持つての受身、杖の厳しい当身等、徒手だけでは経験できない稽古ができて、頭と体が柔軟になる体の杖の稽古、興味のある方は一度体験することをお勧めします。

## ●大成合気道会（さいたま市）

前田 敏之

大成合気道会は、さいたま市大宮区の大成町で、昭和六二年に関根彰弘師範が創設された町道場です。創設後間もなく時代が「平成」に変わり、そしてまた今「令和」となっており、そしてまた今年で三三年目になりました。

初期の頃は、近隣の子供たちを中心とする地域に密着した道場でしたが、今ではホームページを見て結構速くから入門される方もいて、道場の層が広がっています。

道場生は、現在、大人が一九人、子供が一二人ですが、関根師範が法政大学合気道部を指導されていることもあって、大人の稽古にはしばしば法大の学生が参加します。この時ばかりは、平均年齢もぐっと若返り活気のある稽古になっています。

稽古は大成中学校の武道場をお借りして、毎週日曜日の午後に行っています。学校施設をお借りするには、大成地区の体育振興会に加盟し、地区運動会などの行事にも参加する必要がありますが、逆に、このことが、地域において合気道の存在感を示すこ

ともつながっています。

道場の恒例行事としては、毎年一回実施する合宿があり、ここ最近はだいたい九月に行っています。大人も子供も一緒に参加するので、人数も多くて楽しい催しとなります。一方この合宿は昇級・昇段審査も兼ねているので、対象者はゆっくりと羽を伸ばすわけにもいかず、ちょっと気の毒です。

また、折々の飲み会や演武会後の直会などは、他の道場と同じように随時行っています。

合気道は師範によって技や考え方に幅がありますが、当道場では関根師範の合気道を身に着けることを目的としています。

師範はよく「合気道とは己に与えられた己の使命に打ち勝つ道（開祖の言葉）であり、稽古は楽しくなければならぬ。楽しい稽古とは、辛いことも続けているうちに楽しくなるということですよ・・・。」と言われます。

言葉では理解してもそれを実践することは難しいものです。少しでも

合気の本質に近づけるようにこれからも稽古に励みたいと思います。

最後になりますが、当道場のようにな小さな町道場では自ら行事を行うことに限界もあり、県連主催の講習会や少年錬成会に積極的に参加することで、多くの刺激をいただいております。事務局の皆様には大いに感謝しつつ、引き続きよろしくお願ひしたいと存じます。





# 彩のなでしこ

N A D E S H I K O



## 合気道と私

新郷合気会会長 遠藤 美津子

子育てを終えた専業主婦の私が運動不足を感じていた頃、町会の回覧板から「合気道教室」の文字が目飛び込んできました。「合気道」とはどんなことをするのか、見たことも聞いたこともないままで、見えない「気」をどのように扱うのかと興味を持ちました。稽古場所は自宅から近い中学校の武道館だったので、これ幸いと気楽に出掛けてみました。

そこで目にした指導者大久保先生の動きは機敏で、子供の頃読んだ本の中の「牛若丸」

のようでした。さらに、先生の「まあるい」受け身に感動し、自分もやってみたくと、その日のうちに迷わず入会を決めました。

その後、合気道の奥深さと終わりのない稽古を知ることに、時間はかかりませんでした。

何をやっているのか解らないままに、自分の不甲斐の無さに落ち込み、そのうちに、やっぱり面

白いと気を取り直し、稽古を繰り返す日々でした。

学生時代以降、三十年も縁がなかった審査（試験）や合宿稽古に緊張し、全日本演武大会での道主をはじめ多くの師範の先生方や、各道場の演武に心を打たれ、合気道の虜になっていきました。そして、今では合気道も生活の一部になり、家族の快い協力も手伝って、稽古を始めてから二十年と半ばになろうとしています。

ここ数年、埼玉県合気道連盟の稽古に参加させていただき、改めてこの上ないやり甲斐を見つけました。そんな中この度、お陰様で昇段推薦をいただき夢のようです。嬉しさと共に責任の重さに身が引き締まる思いです。今年は気持ちも新たに、段位に恥じないように、さらに精進を続けます。

これからも、合気道と出会えた「縁」と合気の「円」を大切に、技も生活も「まあるく」、を目指していきたいと思います。

※このコーナーでは県内の女性合気道家をご紹介します。自薦・他薦を問いませんので各道場よりのご応募をお待ちしております。

## 「彩の合気」への投稿をお待ちしています。

- 表紙写真／写真 1 点あたり 5MB 以上のデータ
- 道場行事報告／原稿 1,000 文字、写真 2 点
- 彩のなでしこ／合気道への想いを原稿 800 文字、写真 1 点

※画像はプリント写真もしくは写真1点あたり2MB以上のデータをお願いします。画像解像度が低いと印刷に適合いたしません。(プリント写真はご返却いたします。)

### 登録メールアドレス変更の際は必ず事務局までご連絡ください。

連盟情報を伝達する手段としてご登録いただいております加盟団体の登録メールアドレスですが、アドレスに変更が出た場合は速やかにご連絡をお願いいたします。特に下記の2例は、変更の連絡が忘れがちになりますのでご注意ください。

- 登録が携帯アドレスで、携帯電話会社の変更をしたとき。
- プロバイダーの変更をしたとき。

埼玉県合気道連盟事務局 管理 石川豊治  
メールアドレス [ishikawa@sainoaiiki.com](mailto:ishikawa@sainoaiiki.com)